キャラクター名: 山城 十(やましろ とお)

プレイヤー名:

シンドローム	モルフェウス ウロボロス	ワークス	FHエージェントB	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	女
覚醒	無知	衝動	飢餓	初期侵食率	39 %
出自	天涯孤独	経験	脱走	邂逅	居場所

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2		0			2
感覚	3	1	0			4
精神	2		0			2
社会	1		0			1

HP	26
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	4	
運転：			芸術：			知識：			情報： FH	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
[S]トツカ	白兵	2r-4	8	16		行動値-5,ダメージ+【肉体】侵蝕率+2
[S]トツカ	白兵	2r-4	8	16		行動値-5,ダメージ+【肉体】侵蝕率+2
		0				
[C]:トツカニ刀流(本気です)	白兵	12r-6		32		80↑C値-3 侵蝕率+14 メジャー<マルチウェポン>+<コンセントレイト>+<混沌なる主>+<サポートデバイス>

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス：装着者	P	N		
日餅きなこ	P 友情	N 不信感		
トツカ	P 執着	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 10	残り財産P： 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:ウロボロス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-LV(下限7)							
原初の赤：マルチウェポン	1	4	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	武器の攻撃力と効果を合計							
黄金錬成	3	-	常時	至近	自身	自動成功	-	
効果：	常備化ポイント[LV×10],基本侵蝕率+3							
超軽量化	2	-	常時	至近	自身	-	-	
効果：	LV個装備制限を無視,基本侵蝕率+2							
幻想の色彩	1	4	-	-	-	-	-	
効果：	エフェクトの射程を視界に変更,シナリオLV回							
混沌なる主	3	2	-	-	-	-	-	
効果：	達成値+[LV×2],シーン3回							
サポートデバイス	4	6	セットアップ	至近	自身	自動成功	80↑	
効果：	ラウンド中【肉体】のダイス+[LV×2],シナリオ3回							
テクスチャーチェンジ	★	-	メジャー	至近	自身	自動成功	-	
効果：	アイテムの外見を任意のものに変更							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

トツカニ刀流幸薄娘

孤児だったところをFHに拾われてエージェントの育成施設で育てられる。
しかし能力不足で処分されそうになる。
なんとか脱走してFHの道具保管庫に逃げこみ二本のトツカに出会う。
追手に追い詰められダメ元でトツカを手にしたところ適性が発覚、追手を全滅させる。
その後、FHエージェントとして認められるもあくまでトツカのおまけ扱いである。
コードネームも自身のものは与えられず武器の名前でしか呼ばれない。
名前も施設でのコードナンバーをもじって自分で付けたものである。
その為、基本的に物腰は低く、常にびくびくしている。
またトツカに触れていないとエフェクト類一切を使用できないため常に身に着けている。

トツカ設定
FHに保存されていた二本の大剣。
その内の一本は剣のレネゲイトビーイングがトツカを模倣した姿である。
本物のトツカの放つ存在感に圧倒され自らも同じ姿になることを望んだが
その結果として自我を失い眠りに付いてしまう。
実は現在十の使っている能力は全てこのレネゲイトビーイングの能力が彼女を通して発現しているものである。
能力を使用する度に目覚めが近づいていて十もある程度は察しているのだが
この剣を失った時のことが恐ろしく、気づかないふりをしている。